

国境をこえてチャレンジする学生たち

# 留学生・留学体験紹介

Shimane ∞ World

現在島根大学では、世界28か国・地域、103の大学・機関と交流協定を結んでいます。毎年、多くの島大生が海外へ留学し、多くの留学生が海を渡ってやってきます。留学経験のある学生に、留学体験について伺いました。

FROM  
  
出身地  
ベトナム



レー・ティン・トゥアン  
LE DINH TUAN さん  
(自然科学研究科  
環境システム科学専攻 2年)

**日本で経験を積み  
将来は母国へ貢献したい**

母国の橋や道路などインフラの多くは日本人によって作られたものです。大学では土木を専門に学び、かねてから日本留学に興味がありました。島根大学に留学し、建築を学ぶ友人から話を聞いたことがきっかけで、島根大学への留学を決めました。先生方はとても熱心に指導してくださり、勉強だけでなく生活面でもいろんなことを教えてもらえ、親のような存在です。研究室では、鉄骨構造に関する研究を行っていて、今は修士論文執筆の真っ最中です。大学では、専門分野以外にも建築に関する様々な知識を身に付けることができただけで、実際の建築現場を見学する機会にも恵まれました。卒業後は日本で就職して経験を積み、将来的には母国に帰って、日本で得た知識や経験を活かしていきたいです。

TO  
  
留学先  
ジャマイカ



留学先

ジャマイカ

はしもと ゆうた  
橋本 友太 さん  
(自然科学研究科 環境システム科学専攻 2年)



**農業活性化のために尽力  
自ら学び・考え・行動すること**

国際協力に関心があり、大学院を休学して青年海外協力隊に参加しました。ジャマイカのポートランド教区にある4 Hクラブ（農業青年クラブ）で、教区内にある小学校のスクールガーデンの普及活動を行いました。教区内の学校のうち15校を日替わりでまわり、苗の作り方や植え方、肥料の作り方などを教えながら一緒に農作業をしました。ボランティアが帰国した後の定着が難しいという課題があったため、何が問題でどうすれば定着するのかを考えるために各学校へアンケートを取ったりもしました。今回の活動にあたって、環境教育に関する様々な論文を読みました。国によって考え方も異なり、学校ごとにケースバイケースになるため、広く学んで様々な視点を得ること、自ら考えて行動することの大切さに気付きました。



1. ポートランド教区での日常の小学校巡回活動の様子。2. 現地の農業機械、資材を扱う企業のEXPOで、日本の農業のブースを他の青年海外協力隊員と出展した際の様子。

留学先  
アメリカ



あびる はな  
阿比留 華 さん  
(法文学部 社会文化学科 4年)

**ホームステイを通じて  
リアルな生活を体感**

3年の時に、オペアの制度を利用してアメリカへ留学しました。住み込みでホストファミリーの子どもたちのお世話をするため、留学前には1年間、児童クラブに通って子どもとの関わり方を学びました。留学から約半年後、徐々にコロナの影響が開始、家でホストファミリーと過ごすことが増えたため、アメリカでのリアルな生活やリアルな英語を体感することができました。ホストファミリーだけでなく、他国からオペア留学しにきている人たちとも年齢や国籍を超えて交流できたことで、多様な文化にも触られました。この留学をきっかけに、子どもたちに英語を教える先生になりたいという思いが強くなりました。留学で学んだことを忘れないように勉強を継続しつつ、希望の仕事に就けるように頑張りたいです。

※オペア：外国にホームステイして現地の子供の保育や家事を、滞在する家族から報酬をもらって生活する留学制度のこと。



1. 総理工学部棟内にある無響室で音響の測定を行うトゥアンさん。2. 研究室の送別会での一コマ。



1. ホストファミリーとユタ州の州立公園へ年末旅行に行った時の様子。2. 国も経歴も年齢も違うオペアの友人たちとアラスカにオーロラを見に行った際の一コマ。

